

東北農政局・農村RMO推進フォーラム
2024/12/19



ひいずる

“日出る伊手”の農村RMOへの チャレンジ

奥州市伊手振興会事務局長（伊手地区センター長）

伊手農村農業活性化協議会事務局

境田 洋春

取組みの流れ

- ・急速な社会構造の変化に伴い様々な活動に限界
⇒次の世代に未来を託すため
地区コミュニティ計画及び組織を再構築（住民参加⇒地域活動を見直し）
- ・目指す将来像の設定！
- ・コミュニティ計画で定めた課題解決への取組み
⇒「特別プロジェクト」3つの実現！
- ・国の交付金事業（農村RMO形成モデル支援）を導入（R4～R6）
メニュー：農用地保全、地域資源活用、生活資源
- ・旧伊手小学校（地域資源）を活用して事業をマネジメント
⇒コミュニティ-ビジネスも含めた「地域運営組織への移行」！
- ・「伊手地区の小さな拠点づくり」モデル地区指定
⇒旧小学校改修工事に関する協議（R5～R6）⇒市長プレゼン

農村RMOの実施体制

伊手地区を包括する住民自治組織（一般RMO） * 既存組織

伊手振興会

伊手振興会
(株)菅野農園
農地・水組織伊手組織
中山間連絡協議会

伊手農村農業活性化協議会

* 農村RMO事業実施主体

伊手農村農業
活性化協議会

① 農地保全

伊手小学校跡地活用
検討チーム会議

* 「伊手コミュニティ計画」
特別プロジェクト

② 資源活用

伊手振興会
つながる部会

* 伊手振興会の部会

③ 生活支援



伊手地区センター
伊手振興会が奥州市から指定管理を受託



伊手地区センター職員兼伊手振興会事務局

1. 伊手の紹介

- ▶ 奥州市の最東端に位置する中山間地
- ▶ 人口1,443人、620世帯、高齢化率53%（R4年）
- ▶ 9つの行政区（自治会）からなる
- ▶ かつては鉱山もありにぎわった（昭和53年閉鎖）
- ▶ 5,000haの広大な面積の67%が山林
- ▶ 農業が主産業（米、和牛、りんごなど）
- ▶ 中学校は令和4年3月に閉校、伊手小学校も令和5年3月をもって閉校



2. コミュニティ計画の策定

▶ 完成した新しいコミュニティ計画



3. 農村RMOの取り組み

▶ 農村RMO

- ▶ 令和4～6年度補助対象に

▶ 農用地の保全

伊手全体で話し合えるデータ作成

- ▶ ビジョン作成

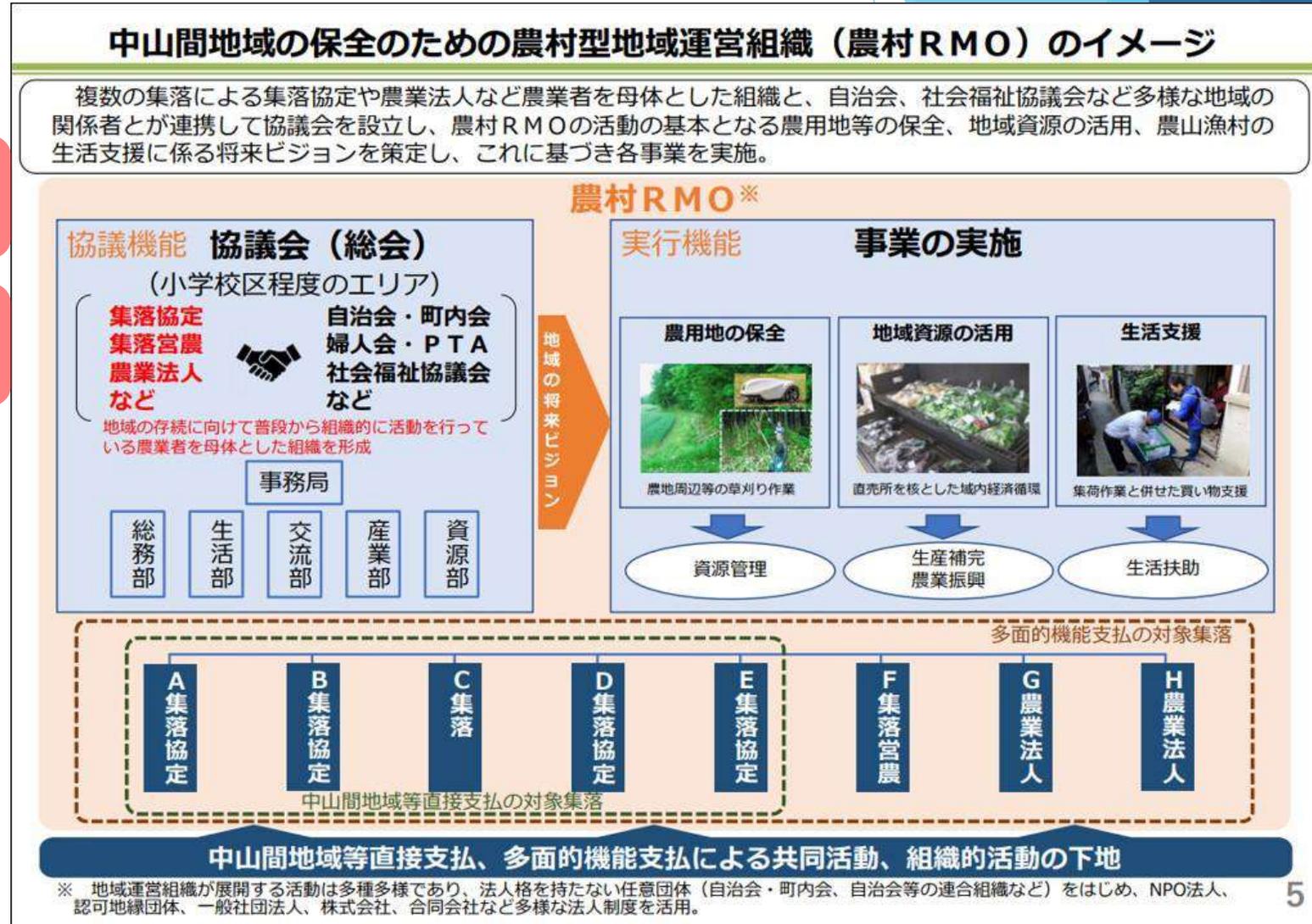
鳥獣害被害の実態把握

▶ 地域資源の活用

- ▶ 伊手小学校
- ▶ ブランド化

▶ 生活支援

- ▶ 伊手小学校で農福連携



- ▶ ① **「農用地の保全」**は農地農業将来ビジョン作成検討会の開催、**有害鳥獣被害実態把握**を行い**ビジョンの作成を目標**としている

※「まもれる農地とまもりきれない農地の見える化」地図の作成、
「生息・被害の見える化」を実施

- ▶ **「鳥獣対策モデル区域」での実効性のある対策**及び**「守れる農地と人を守る」ための対策**のレベル設定も検討

人・農地プラン+図面 = **地域計画への反映**に展開した

- ▶ ② **「地域資源活用」**は、旧小学校跡地活用検討会の開催・同グランドデザイン作成・跡地運営体制の構築、並びに「伊手ブランド化」などの発信を目標設定

- ▶ ③ **「生活支援」**は、生活課題に対する利用者ニーズと支援ニーズを調査し、**お互い様支援体制の構築を目標**

自家用有償旅客運送“いで・ごー”による事業もこのボランティアメニューのひとつに展開

農用地保全

- (今年度の活動)
- 1) 農用地に関する資料の収集
 - 2) 農用地の課題のマップ化 (中山間の地域戦略ベース)
 - 3) 中山間直払組織代表らによるワークショップの開催 (2回)



(見えてきた困りごと)

- お米は作るより買った方が安いくらい
 - ・米価が安い
 - ・収量は1反あたり7俵(条件不利地域)
- 跡継ぎどころか、やってくれる人がいない
- 条件の良い田んぼでもやめてしまう人がいる
- 地区外に住んでいる田んぼが手つかずになっているものも少なくない
- 草刈りが大変。これ以上作らない人が増えるとやりきれない。

(取り組むべき課題-ミッション-)

【令和5～6年度】

- ①「守るべき農地」と「守り切れない農地」のマップ化
- ②世代別語る会の開催
 - ・守るべき農地の守り方
 - ・守り切れない農地のこれから
- ③有害鳥獣対策の勉強会と実践

【令和7年度～】

- ・中山間や多面的などの事務の一括化による負担軽減
- ・「守るべき農地」の守り方の実践(機械の共同化、集落営農等)
- ・「守り切れない農地」の次のあり方に向けた実践(粗放的農業、果樹園等)

(実現したい未来-ビジョン-)



伊手らしい働きたくなる
新しい農業
(半農半X、働き方改革)
を描き、実現する。

いろんな人が関わる
農村・農業を実現する。
(非農家、外国人、)

地域資源活用(旧伊手小学校の活用)

- (今年度の活動)
- 1) 活用検討チーム会議(5回)
 - 2) 先進地視察(秋田県内3か所)
 - 3) 学識者による勉強会
 - 4) 住民アンケート調査



(見えてきた困りごと)

- 地域としては、地元で活用したいと考えているが、市は「民間への売却」を第一希望としており、地域が活用しようとするときの具体的な支援体制が整っていない。
- また、活用方法によって市の担当窓口も変わってくる。
- 小学校の規模が大きいため、地域としては校舎の一部の活用からスタートさせたいと考えているが、そのような活用が可能か市との協議が必要となっている。

(取り組むべき課題-ミッション-)

【令和5～6年度】

- ①市との協議により、一部教室での活用をスタートさせる。
(案:農福連携による加工作業場)
- ②子どもたちがわくわくするような体験イベントをグラウンドや校舎を使って試行的に実施する。
- ③小学校を拠点化するために必要な修繕等の基本設計を行う。
- ④小学校跡地において自立的に事業を展開させる組織を立ち上げる。

【令和7年度～】

- ・貸し部屋等の営利的事業を実施する。
- ・特産品開発等新たな産業を生み出す。
- ・移住を促進するための事業を実施する。
- ・その他ビジョン実現に必要な活動や事業を住民主体により展開する。

(実現したい未来-ビジョン-)



子どもたちが
「伊手っていいな」
「戻って来たいな」
と思う活動拠点となる。

地域の負担とならない
自主自立の運営を実現し、
稼げる拠点となる。

生活支援

- (今年度の活動)
- 1) つながり部会(1回)



(見えてきた困りごと)

- おたがいさまのしくみを必要とするほど困っている人がいる分からない
- 今は民生委員が対応しているが、民生委員の仕事は大変。民生委員を助ける仕組みが必要

(取り組むべき課題-ミッション-)

【令和5～6年度】

- ①住民アンケート調査を実施し、おたがいさまの仕組みのニーズを知る
- ②民生委員の困りごとの把握

【令和7年度～】

- ・有償ボランティアだけではなくおたがいさまのしくみをつくる(主体と対象サービス内容)

(実現したい未来-ビジョン-)

いつまでも
安心して暮らせる
つながりをつくる

1) 農用地の保全

有害鳥獣被害及び対策の実態調査

実践活動 1

農村 RMO モデル形成支援事業活用 (農林水産省)

これから本格化する イノシシ被害他 有害鳥獣被害から みんなで伊手の農地を守る 未来を守る勉強会

**参加費無料
定員 100名**

※伊手地区外の方も参加可能です

今の対策ありますか？

どんどん増えます

令和5年
9月12日
10:00～12:00
伊手地区センター

講演
野生生物研究所
ネイチャーステーション
イノシシ
古谷益朗氏

学生時代は武蔵野の雑木林と野鳥をテーマに写真家嶋田忠氏と共に活動。埼玉県子ども動物自然公園勤務を経て、埼玉県農業技術研究センターにおいて鳥獣害対策を担当し 2019 年に退職。現在は野生生物研究所ネイチャーステーション代表として活動。鳥獣被害対策研修のほか自然写真家として NHK「ダーウィンが来た!」「さわやか自然百景」の撮影協力も行っている。
農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。

1. 開会・趣旨説明
2. 奥州市の有害鳥獣被害の現状
3. 講演：「有害鳥獣被害対策の最前線」
4. 質疑応答
5. 閉会

主催：伊手農村農業活性化協議会 <事務局 伊手振興会>

農地の現状把握



「鳥獣被害マップ作り」見える化WS



有害鳥獣対策勉強会 (講師；古谷益朗氏)



対策に実態調査 次の展開へ



有害鳥獣被害及び対策の実態調査 実践活動 2

▶ 2023/10/20 鳥獣対策に係る定点カメラ設置（古谷益朗氏）

「鳥獣見た・被害あった図」（9/12WSで作成）を基に2か所選定

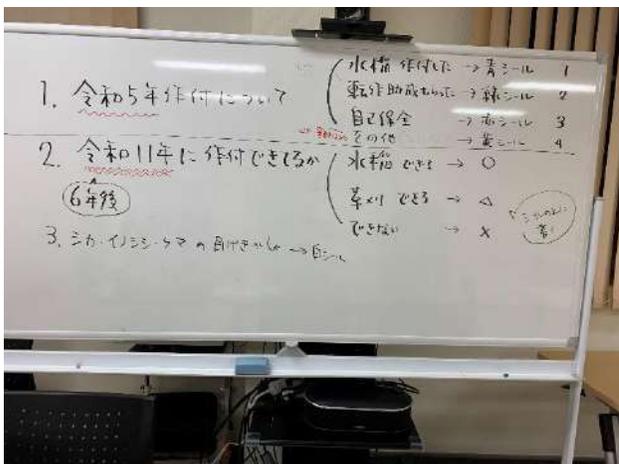
設置条件；被害が多い、これから個体数が多くなる、
土地所有者の承諾



農用地耕作実態の調査

2023/11/22ワークショップ

内容：①R5作付け状況 ②R11作付けできる？ ③シカ、イノシシ、熊の出没状況
(中山間19集落、農地・水1組織(全組織)出席関係者：延べ26名)



①水稲作付け
 転作
 自己保全
 その他

② 作付けできる
 草刈りできる
 できない

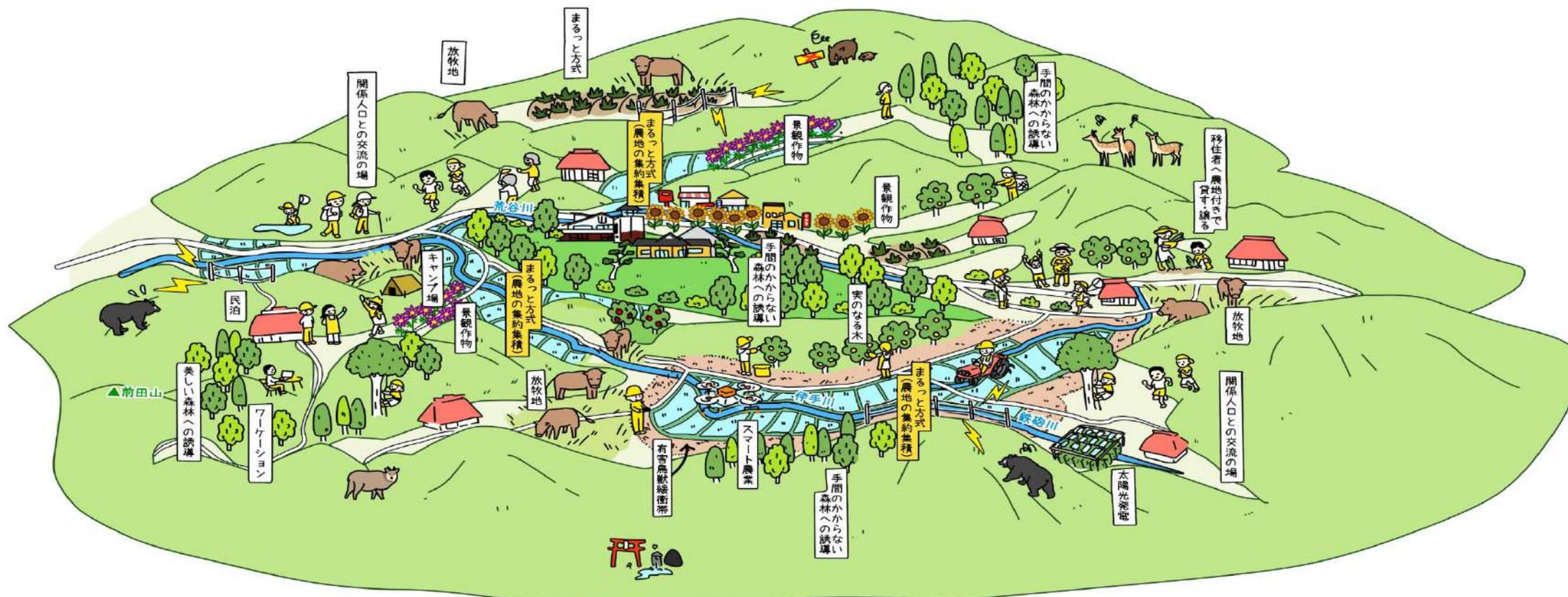
③獣の出没



地域計画（人・農地プラン）策定に反映！

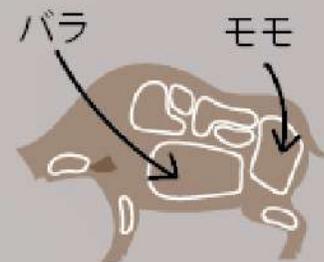


「農地・農業アクションプラン」のまとめ 【イメージ図】



有害鳥獣から
伊手を守る術を学ぶ

けもの大学



開校式 & 第1回授業

2024年6月7日(金)

13:30~15:00



60名程が受講



令和6年度 けもの大学カリキュラム

回	日時	種類	講義内容
第1回	6月7日(金) 13:30~15:00	座学	(総論) 有害鳥獣対策の最前線を学ぶ
第2回	8月21日(水) 13:30~16:00	座学と 実習	(各論1の矢: 侵入防止策) 正しい侵入防止対策を学ぶ
第3回	10月24日(木) 13:30~16:00	座学と 実習	(各論2の矢: 生息環境管理) けものが嫌がる生息環境を学ぶ
第4回	1月27日(月) 13:30~16:00	座学と 実習	(各論3の矢: 個体群管理) 狩る、そして食べる

成績発表と単位授与式

「みのり大学」開校！
第1回授業は...



農地が荒れる前に できること



ピーカンナッツの可能性

有害鳥獣対策を学び実践する「けもの大学」に続き、農業に対する知識を学んだり、伊手地区内で実際に実践したりする「みのり大学」を開校します。ぜひご参加ください！



参加費
無料

※伊手地区外の方も参加可能です

開校式 & 第1回授業



2024年8月23日（金）
14：30～15：30

2) 地域資源活用

▶ 小学校跡地活用

- ▶ 伊手小学校跡地活用検討チーム会議の立ち上げ（令和4年6月）

伊手の子どもたちが
「伊手っていいな」と思える
拠点となること・活用を目指す

収益性のある事業も行いながら
地域にとって公益的な拠点運営によって
地元の負担のない地域拠点を目指す

令和6年度
旧伊手小学校
改修実施設計
業務



令和7年度
旧伊手小学校
改修工事



令和8年度
供用開始



伊手小学校跡地活用アクションにもとづく実践活動（令和5年度）

front

おいでよ伊手
サマエキャンプ 2023
みんなでつくろう！
これからの旧伊手小学校

伊手地区センター / 旧伊手小学校
先着 **20名** 7/22 sat 10:00から 23 sun 12:00まで

参加者募集

対象：小学4~6年生
締切：7月17日(月)
参加費：3000円

右側QRコードを読み取り、申込受付フォームよりお申し込みください。

【主催】伊手振興会 / 伊手農村職業活性化協議会【企画】株式会社ランク

back

プログラム

受付	9時45分より受付開始
なまえ覚えゲーム	自己紹介のゲームでみんなの名前を覚えよう！
ピザ作り	みんなでピザを作ってみよう！
お昼ごはん	作ったピザをおいしく食べよう！
遊びの時間	ボールゲームやかくれんぼなどみんなで思いっきり遊ぼう！
旧伊手小学校探検	旧伊手小学校の中を探検して面白いことを考えてみよう！
カレー作り	班に分かれてとっても美味しいカレーを作っちゃおう！
夕ごはん	自分で作ったカレーは美味しくできたかな？
水風呂	大きなお風呂でみんなで水風呂！汗を流してスッキリ！
花火	手持ち花火で夏の思い出を作ろう！
キャンプファイヤー	火を囲って歌ったり踊ったり楽しい一日を締めくくろう！
就寝	いっばい寝んだあとは、たくさん寝よう！おやすみ！
ラジオ体操	体操でからだを動かしてテラス作りに備えよう！
朝ごはん	朝はお兄さんお姉さんの手作りにおにぎり！たくさん食べよう！
旧伊手小学校テラス復活	伊手小学校のテラスをみんなで作ってみよう！
解散	帰るまでがサマエキャンプ！楽しい思い出ができたかな？

奥州市内の方限定！

01 旧伊手小学校校見学会 & 利活用ワークショップ
日時：22日(土)15:00~16:30
旧伊手小学校(RS.3.31原校)のこれからの活用方法を一緒に考えてみませんか？

02 旧伊手小学校テラス復活
日時：23日(日)09:30~12:00
子ども達と一緒に旧伊手小学校のテラスを直しましょう！

参加申込はコチラ！
お申し込みは右側QRコードを読み取っていただき、下記URLをご利用ください。
<https://forms.gle/M2e9eKQLFTQ7ngRL9>

お問い合わせ
伊手地区センター
〒023-1761
岩手県奥州市江刺伊手西風 54
☎0197-39-2121

持ち物

<input type="checkbox"/> ぼうし	<input type="checkbox"/> 水筒・お弁当箱	<input type="checkbox"/> 着替え	<input type="checkbox"/> 爆袋
<input type="checkbox"/> 動きやすい服装・上靴	<input type="checkbox"/> スプーン・フォーク・箸	<input type="checkbox"/> タオル(2-3枚)	<input type="checkbox"/> 水筒
<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> エプロン・ハンカチ	<input type="checkbox"/> 洗面・お風呂道具	<input checked="" type="checkbox"/> 楽しい気持ち

- ・参加児童 22名（一泊二日）
 - ・ピザ、カレーライス、花火、キャンプファイヤ、水風呂、テントで一夜！
 - ・同校舎のテラスの復活
 - ・電動工具も使って補習実践！
 - ・同校舎の利活用WS（参加者20名程）
- 古里での野外活動は素晴らしい体験！



小学校跡地活用アクションにもとづく実践活動

- ①キャンプ・テラス復活 ②見学会・跡地活用WS（こども向け、おとな）

みんなの名前を覚えよう



お昼 ピザ作り体験

夕食はカレーライス



校舎の利活用ワークショップ

校舎のテラス復活！



取りまとめた利活用基本構想

奥州市旧伊手小学校利活用
基本構想



2023年（令和5年）9月
伊手農村農業活性化協議会

10/10伊手農村農業活性化協議会から市長へ提出

《目指すべき**基本理念**》 **3つの軸**

- ①子ども達を中心とした地域の賑わいの創出
- ②地域産業を学び発信できる拠点
- ③地域交流の促進とチャレンジできる場の整備

「小さな拠点づくり（伊手）」モデル事業

市が奥州市未来羅針盤プロジェクトに伊手地区域生活圏モデルとしてデザイン
(次ページ 奥州市資料参照)

【スケジュール】

- 令和6年3月30日 伊手地区をモデル地区指定（振興会総会議決）
- 5月31日 小さな拠点づくりモデル事業実施協定締結（振興会総会議決）
- 6月 旧伊手小学校複合施設改修設計業務の入札執行
- 6月20日 市議会（全員協議会）に説明
- 9月 設計業務完了予定 / 総合計画実施計画・ローリング作業
- 令和7年2月 改修工事に係る予算要求
- 令和7年度 工事の発注、施工、完成
- 令和8年4月 2階を複合施設として供用開始（1階は伊手地区センター）

∴ 伊手農村農業活性化協議会は、

- ・事業計画・運営計画 8月中を目途に作成を展開
- ・設計協議 運営計画素案作成⇒調整⇒幹事会確認⇒市と共有（10月）
- ・地域運営組織法人 設立は年内を目標

小さな拠点づくりプロジェクト

狙い 【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって事業者、市と連携・役割分担した、日常生活に必要な機能・サービスの集約による地域資源を活かした持続可能な生活圏の維持

地域住民による活動のステップ

①地域住民による「地域デザイン」の策定

②地域住民主体の地域運営組織の形成

③生活サービスの維持確保

④仕事・収入の確保

住民主体による地域資源を活用した地域づくり

○振興会が地域資源活用特別プロジェクトを立ち上げ
○検討チームによる住民アンケートや勉強会を実施

○地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
○旧伊手小を複合施設に利活用
1階に伊手地区センターを移転
2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に地域資源を活かした生業の創出、地域交流を促進

農福連携の推進・農作物の加工



体験プログラムの構築
グリーンツーリズムへの対応



キャンプや野外イベントの開催



安らぎの場
ブックカフェの開設



効果があった事業は
全市展開

企業・団体との連携、地域資源

農業生産	果樹園、産直施設
地域資源	金命水、キャンプ
自然景勝地	阿原山高原
郷土芸能	鹿踊り、獅子舞り

伊手地域生活圏モデル

3) 生活支援

▶ 地域内交通プロジェクト 自家用有償運送「いで・ごー」本格運行 令和5年4月1日～

伊手地区で住民同士が送迎しあうボランティア送迎

「いで・ごー」

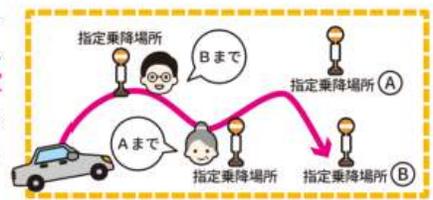
令和4年10月1日スタート!

「いで・ごー」とは?

「自分たちの移動は自分たちで助け合おう!」と伊手振興会が主体となって運行する、伊手地区住民の移動を助ける交通です。

前日 15 時まで予約すると、利用者同士で乗りあって、指定乗降場所まで乗ることができます。

お迎えの時間と目的地までの到着時間や経路は、予約状況で変動します。



利用できる方
伊手地区にお住まいの方

予約先 伊手振興会
前日 15:00 までに
ご予約ください。 **39-2121**
【平日 9:00 ~ 17:00】

運行曜日
月・火・金
(12/29 ~ 1/3, 8/13 ~ 16, 祝日運休)

出発時刻

行き	1 便目	2 便目	3 便目
自宅近くの指定停留所	7:50 頃	9:20 頃	12:50 頃
市営バス バス停	8:30 頃	10:00 頃	13:30 頃
帰り	1 便目	2 便目	3 便目
市営バス バス停	12:20 頃	15:10 頃	17:20 頃
自宅近くの指定停留所	13:00 頃	15:50 頃	18:00 頃

利用料金
1 乗車 500 円
(市営バスに乗り継ぐ場合は割引)

小学生.....250 円
身体障がい者手帳・精神障がい者保険福祉手帳提示者.....250 円
運転経歴証明書提示者.....250 円
同伴者がいる未就学児 2 人まで.....無 料

伊手地区のメインストリートにある商店や食堂と一体的に運行する体制を構築。小さな拠点を守る足としての活躍が期待される。(R4.10.3~試行運行開始)

事業運営主体：伊手振興会
ボランティアドライバー：商店や食堂のスタッフ 他



R6年2月時点登録者は74人、月平均61.2人の利用実績(週3日の運行) 一日あたり5.6人 指定乗降場所 40カ所

明るい未来を実感できる“日出る伊手”をつくる 令和4年10月27日発行

伊手だより11月号

【発行】伊手振興会(伊手地区センター)
〒023-1761 奥州市江刺伊手字西風54番地
TEL・FAX 0197-39-2121
E-mail ideshink@pup.waiwai-net.ne.jp <https://esashide.jimdofree.com/>
オリジナル原稿(カラー)は、奥州市ホームページよりご覧ください。

振興会 自家用有償旅客運送「いで・ごー」出発式開催!

10月3日午前10時、関係者30名ほどが出席し、奥州市長倉成淳様、市議会議員高橋浩様よりご祝辞をいただきました。関係者のテープカットの後、ボランティアスタッフが運転する「いで・ごー」で出発しました。



- ★「いで・ごー」は、伊手地区内にお住まいの方が、伊手振興会に利用者登録申請書を提出していただくご利用いただけます。予約は利用日の前日午後3時までに予約してください。
- ★市営バスは令和5年3月末までは、通常通り運行しています。令和5年4月より市営バスの路線・時刻が変更されます。
- ★料金は1乗車500円です。支払いは、市営バスに乗り継ぐ場合は市営バスに500円、乗り継ぎしない場合は「いで・ごー」に500円、(樹和バス停で乗り換える場合のみ、100円を「いで・ごー」へ、400円を市営バスに支払い)、また小学生、身体障がい者手帳・精神障がい者保険福祉手帳提示者、運転経歴証明書提示者は250円、同伴者がいる未就学児2人までは無料となります。詳しくはチラシをご覧ください。わからないことは地区センターへお問い合わせください。

出発式には市長も駆けつけエール

「いで・ごー」自分たちの移動は自分たちで助け合おう！

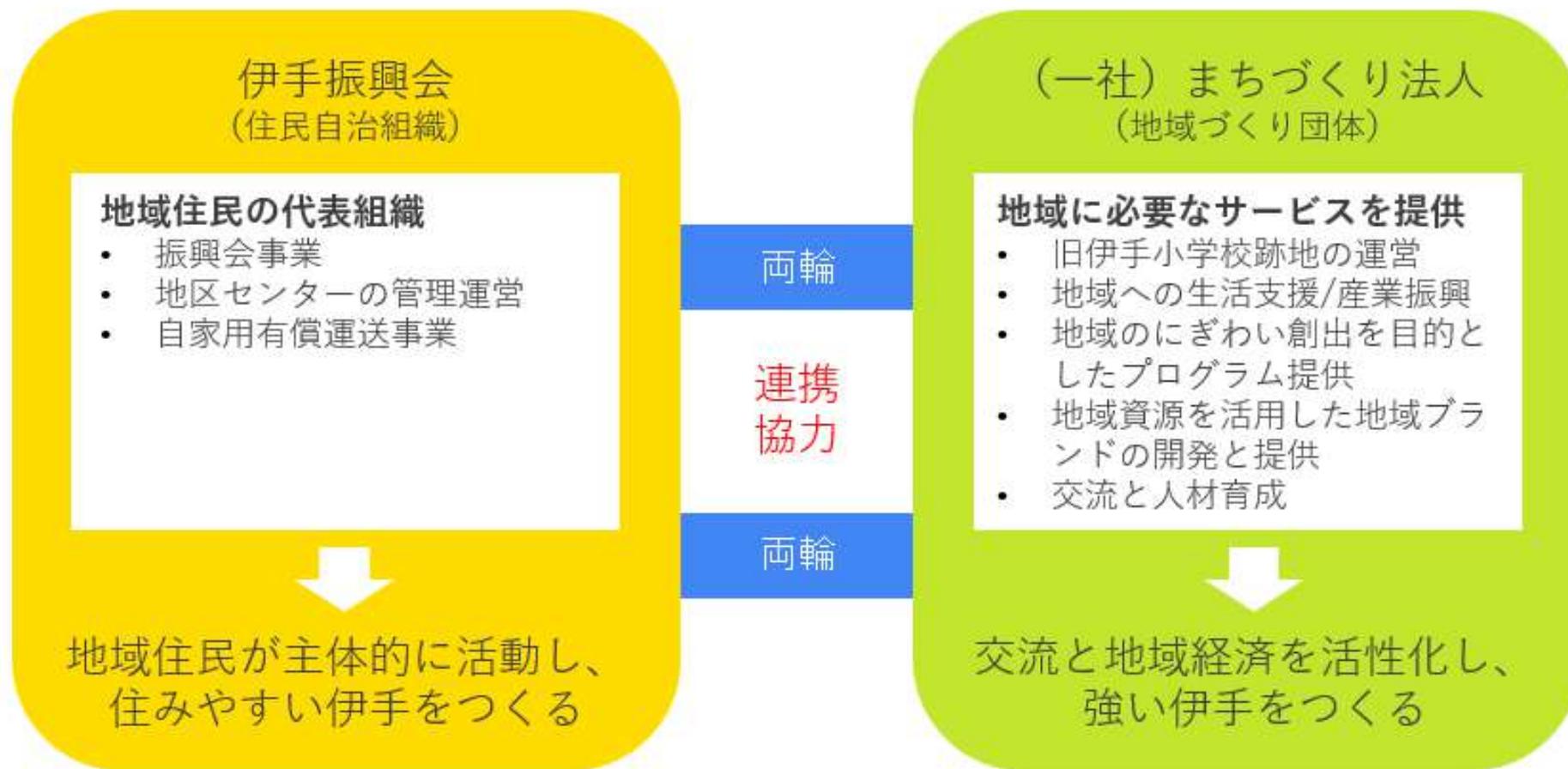
伊手振興会が主体となって運行する地区住民の移動を助ける交通

- ▶ ・ボランティアドライバー 6名
- ▶ ・特色ポイント：地元タクシー（周辺地域を含め唯一のタクシー出張所）との共存
- ▶ ・R6年2月時点 登録者は74人
利用実績（週3日の運行） 月平均61.2人/一日当たり5.6人
利用者の増、「交通手段地区内条件が平等化され浸透した」と評価
- ▶ ・自家用有償運送登録者へのアンケート
意見 ⇒ ボランティア送迎の試行（買い物支援）

<RMO取組内容>

- ▶ 期 間：令和4年度～6年度
- ▶ 令和4年度
 - ▶ 1) 農用地保全、地域資源活用、生活支援に係る将来ビジョン策定
 - ▶ 2) 農用地の耕作実態調査と有害鳥獣被害及び対策の実態調査
 - ▶ 3) 小学校跡地活用に関する検討会の開催（小学校跡地活用アクションの作成）
- ▶ 令和5年度
 - ▶ 1) 農地・農業アクションプランの作成
 - ▶ 2) 小学校跡地活用アクションにもとづく実践活動
 - ▶ 3) 伊手水（伊手の湧水）を活用した伊手ブランド化の検討
- ▶ 令和6年度（事業最終年度）
 - ▶ 1) 農地・農業アクションプランに基づく実践
 - ▶ 2) 小学校跡地活用アクションにもとづく実践活動
 - ▶ 3) 伊手水（伊手の湧水）を活用した伊手ブランド化の実践

伊手地域のまちづくり体制



伊手振興会とまちづくり法人の両輪で**伊手地域の未来**をつくる



おわりに

“日出る伊手”の農村RMOへのチャレンジ

伊手

アイデアイ (IDEAI)

フェイスブック



インスタグラム



IDESHINK2024

ホームページ



SNS・HP
やっています。

伊手農村農業活性化協議会

2024/12/19